

第2次安曇野市スポーツ推進計画に係る第3回策定委員会 会議概要

- 1 委員会名 第2次安曇野市スポーツ推進計画策定委員会
- 2 日 時 平成29年6月27日(火) 午後7時00分から午後8時50分まで
- 3 会 場 安曇野市役所本庁舎3階 共用会議室306
- 4 出席者 古澤会長、加々美副会長、鈴木委員、内田委員、古川委員、太田委員、丸山委員、
宮澤委員、清水委員、新井委員、古幡委員、一志委員、矢野委員
※出席委員総数：13人
- 5 欠席者 古屋委員、小池委員、二木委員、湯本委員、布山委員 ※欠席者：5人
- 6 市側出席者 米倉スポーツ推進担当係長、スポーツ推進担当 平林主事、藤原主事
株式会社KRC 藤村室長
- 7 公開・非公開の別 公開
- 8 傍聴人 0人 記者 0人
- 9 会議録作成年月日 平成29年7月11日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項等
(1) 前回会議時の意見の確認
(2) 計画策定の基本事項について
(3) 課題の整理
- 4 その他
- 5 閉会

2 協議事項概要

- (1) 前回会議時の意見の確認について
※事務局より説明(会議資料1、2)

- (2) 計画策定の基本事項について
※事務局より説明(会議資料3)

①計画の対象期間について

向こう10年程度(H30~39)を見据えての基本方針を作成するとともに、当面5年の間に
取り組むべきことを明確化する。

⇒異議なし

②国の計画との共有部分と分担部分について

「国際競技力の向上」やドーピング対策等の「クリーンでフェアなスポーツの推進」につ
いては主に国に任せる部分とし、「スポーツ参画人口の拡大」や「スポーツ環境の基盤とな
る人材や場の充実」、「スポーツを通じた共生社会等の実現」について共有して取り組んで
いくとのできる部分としたい。

⇒異議なし

【関連して出た意見】

(会長) 体育協会としては、NPO法人になり、行政的なやり方ではない独自の運営をしていき
たいという思いもあるかと思うが、どうか。

(委員) 市であろうと体育協会であろうと市民のスポーツ振興のために活動するという方向性
は一緒であるので、市で取り組む部分と体育協会に取り組む部分と、共同で取り組む部
分があって良いと思う。体育協会はどちらかという競技力向上といった要素が強い
のではないか。

③スポーツの捉え方について

前回さまざまな意見を出していただいたが、本計画では健康増進や体力向上、楽しみなどの意図を持って、余暇時間に計画的に行われる活動を対象と考えたい。

⇒（最終的に）異議なし

【関連して出た意見】

- (KRC) ダンス等の気晴らし的な要素があるスポーツは、資料3-8ページの図の「生活活動」と被る部分もあるが、運動には競技性と気晴らし性の両方の色があるという認識で進めていったらどうか。
- (委員) 場所とか時間を使ってわざわざやるのがスポーツで、生活習慣の中でいろいろ体を動かすのは福祉の範囲になるのでは。
- (委員) 「日本体育協会」ではなく、「日本スポーツ協会」に名称変更することが決まったという話があったが、“体育”という言葉がなくなり、“スポーツ”になっていくというイメージがあるのだろうか。
- (会長) “体育”という言葉がなくなるのではなく、“スポーツ”が体育を包括するというイメージである。
- (委員) スポーツというと勝ち負けや結果にこだわる印象があるが、本計画策定においても競技力向上ということを重視するのか。
- (委員) 学校体育という言葉もなくなるのだろうか。
- (会長) その可能性はある。
- (委員) スポーツというと限定されるイメージがある。体の育成等も含んでいるよりゆるいくりが体育ではないか。
- (会長) 国では体育からスポーツへという流れがあることは確かだが、それぞれの解釈でよいのではないか。
- (委員) 学校教育の立場からすると、スポーツを通じた教育が体育である。昔はそういう観点で取り込まれていたが、価値観が多様化してきて、レクリエーション的なスポーツが体育ととらえられないため、スポーツと言われるようになってきたのではないか。
- (委員) スポーツ推進計画を策定する目的は、わざわざスポーツをする環境を良くするためであり、そのスポーツとは競技性のあるものとそうでないもの両方含んでいる、と考えていけばよいのではないか。
- (委員) 競技力の向上については日本体育協会を頂点とするそれぞれの団体が取り組んでいる内容であり、行政が手を出すことは難しい。そのため、競技力の強化については外して議論した方がよいのではないか。
- (事務局) おっしゃるとおり、市が主体となって競技力向上に取り組むことは無理である。そのため、体育協会に補助金を交付したり、体育施設利用の際に減免したりするなどして、活動をサポートするという形がかかわっている。

④市内の他計画との役割分担

本計画では児童・生徒を対象とする体育・部活動及び競技スポーツ全般を主として扱い、幼児の体力づくりや労働・高齢世代の健康増進につながるスポーツについては他計画との連携していきたい。

⇒（最終的に）異議なし

【関連して出た意見】

- (委員) 部活動についてであるが、自分たちが取り組んできた時代と現在では、人数の面で大きく違うので、そういった資料があるといいのではないか。
- (事務局) 用意したい。

協 議 事 項 等

(委員) スポーツにおいて一番大切なのは10歳頃であり、その前のキッズ年代からスポーツに取り組むことが大切であるが、少子化で難しくなっている。市内では明科高校、豊科高校、穂高商業高校、南安曇農業高校にサッカー部があるが、なかなか部員が集まらない。安曇野市の子どもたちが活躍できる場づくりに課題がある。

(委員) 少子化が進む中で学校部活動と地域クラブチームが協力していく必要性が出てきていると感じる。

(委員) その意見に賛成である。中体連は「学校部活動だけでなく、地域クラブチームが中学生を集めてスポーツを行った方がいい」という提言をしている。また、市内学校でも、野球部やバスケットボール部の人数が足りず、合同部活動を行っているところがいくつかある。それですら10年後には成り立たなくなると言われている。そのため、地域単位での取り組みが必要になってくる。

(委員) 健康増進の分野については、介護予防とスポーツどちらが担う部分なのかあいまいではあるが、高齢化社会においては無視できない部分であり、スポーツとしてどのように計画しているかということが話題になることもあると思うので、それを加味しながら総合的な計画を立てた方がいいのではないかと。

(委員) スポーツ推進計画はあまり幅広い期間を扱うのではなく、競技の部分を中心扱うこととし、また競い合のない部分も含めて誰もが参画しやすい環境を整えることも目標にした方がいいのではないかと。スポーツ少年団に入ってスポーツを始めた子どもが、中学校へ上がってもスポーツを続けることや、社会人、高齢者となってもスポーツを続けることで、結果として健康増進、健康長寿につながるのではないか。

(委員) 障がい者スポーツについて、安曇野市は取り組みが遅れているので、計画の柱として入れた方がいいと思う。

(3) 課題の整理

※事務局より説明（会議資料4）

- ①市民とスポーツの関わりの実態からの整理
- ②第1次スポーツ振興計画の実績と市民ニーズからの整理
- ③計画策定の基本事項と今後に向けての課題（仮整理）

【関連して出た意見】

(委員) 中学校の部員の数については県のスポーツ課に問い合わせればわかるので参考にしてほしい。

(委員) 障がい者スポーツ指導員と呼ばれる人たちが市内にもいると思うので、協力していけばいいと思う。

(委員) 資料4-14の「H23～H28におけるスポーツイベント・教室【普及活動】の実施概要」の表について、「安曇野ウォーキング」が2か所に記載されているので直し他方が良い。

協 議 事 項 等

(総合型地域スポーツクラブについて)

(委員) 【第1期計画総括】の部分に、今後さらに力を入れるべき分野として、「総合型地域スポーツクラブの設立」とあるが、スポーツ推進委員の誰かを指名するのか、それとも自主的な動きを待つのか。もし立ち上げをするということであれば、予算(補助金)とマンパワーをある程度市でも用意する必要があるのではないか。

(事務局) ある程度声掛けをしていかないと第2の総合型地域スポーツクラブの立ち上げは難しいと考えている。運営への支援については、TOTOの補助金があり、立ち上げから5年程度は数百万の補助を受けることができる。

(委員) 総合型地域スポーツクラブ立ち上げの機運が高まった時期に作ってればよかったが、現段階では規制が厳しくなっており、厳しいのではないかと。

(委員) 補助金が出なくなる6年目から経営が苦しくなる。また、既存のクラブ「スポネット常念」を見ていると、運営には何百万円という金額がかかっており、片手間でできないと感じる。他のクラブのリーダーは一般の人が担っているのか、それとも行政の一部で受け持っているのか。

(委員) 長野県内では行政が主体となって立ち上げたクラブが多い。

(委員) もともと学校単位で立ち上げようとしていたが、参加競技が多くなるとクラブとしてやっていくことができない。そのため、豊科では立ち上げを断念した。指導者のほかにも参加競技・団体が必要である。

(委員) 中学校の部活が総合型地域スポーツクラブに含まれるというのが一番いい形なのではないかと思うが、そこまで行くのが大変である。

(委員) 最初は中学校区で立ち上げようとしており、学校の先生が事務局員を務めている例もあった。その場合は教育委員会も協力し、その教師の授業数を少なくするなどしていた。ただ、学校の教師が事務員として活動するというのが現状にあっているかは疑問がある。

(委員) また、機運が高まってからだいぶ経っているので、立ち上げには相当なエネルギーが必要である。

(委員) クラブ運営員が相当の報酬を得ていくことが必要。それでなければ相当数の時間をかけられない。

(委員) それが目的ではあるが、そうっていない。生涯スポーツであってもお金がかかるという認識が必要だが、浸透していないと感じる。また、資格がないと指導できない雰囲気があり、自分たちも指導者の資格を取った。

(会長) 話しくしたということであれば、事務局で内容を整理し、次回は8月頃に開催したい。まだ足りないということであれば、次回は7月に開催し、さらに意見を伺う機会としたいが、どうするか。

⇒7月に開催することとなった。

【会議終了】